

令和7年度使用

中学校用教科用図書研究資料

技術・家庭（家庭分野）

宮崎県教育委員会

Ⅰ 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 家庭科の目標を達成するために、「未来につながる家庭分野」「食生活」「衣生活」「住生活」「消費生活と環境」「私たちの成長と家族・地域」「生活の課題と実践」の順で自立から共生へのストーリーにすることで、家庭分野の学びと生活がリンクし、学びが深まるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 構成・配列については、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせることの必要性について、Ⅰ編Ⅰ章の「家庭分野のガイダンス」で具体例を示して確実に意識できるようにしたり、各編の導入の見開きページでも再確認したりして、よりよい生活の実現に向けて、生活を創造しようとする力を育むことができるような工夫が見られる。</p>
6 教 図	<p>(1) 家庭科の目標を達成するために、学習指導要領に沿った構成になっている。知識及び技能を身に付けるための「見つめる」「学ぶ」や思考力・判断力・表現力を養うための「学びを生かそう」を繰り返す問題解決的な学習を通して、資質・能力が確実に身に付くような工夫が見られる。</p> <p>(2) 構成・配列については、章の初めて、自分の生活を見つめながら、「自立度チェック」で自分の状況を確認し、章の終わりの「学びを生かそう」で、今後取り組みたいことを考えさせることで、章での学びとこれからの暮らしをつなぎ、社会の一員として協働して生きる力を身に付けることのできる工夫が見られる。</p>
9 開隆堂	<p>(1) 家庭科の目標を達成するために、自己と自分を取り巻く環境や、「これまで」「現在」「これから」の時間軸等、全体を俯瞰した多様な視点から学習を捉えさせることで、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることができるような構成の工夫が見られる。</p> <p>(2) 構成・配列については、導入から振り返りまで中学生が体験しがちなエピソードや、学習者の思考を揺さぶる問いを随所に盛り込むことで、より自分事として問題を見つけたり、解決に努めたりして、よりよい生活の実現に向けて、自ら考え判断していけるような力を身に付けることのできる工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、「考えてみよう」「やってみよう」などの活動を数多く取り上げ、主体的に調べたり、友達と協働して比較検討し、発展させるためのヒントを設けたりするなど、対話的に学ぶ工夫が見られる。また、チャートやウェビング、グルーピングなどの思考ツールを活用することで、個人思考や集団思考を効果的に整理し、まとめていくことで深い学びに向かうよう工夫されている。</p> <p>(2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために「学習のまとめ」では、知識及び技能の振り返りの内容が多く、「いつも確かめよう」には基礎的な技能をまとめ、家庭でも実践しやすい難易度の低い実習例を取り上げるなど、デジタル補助教材とあわせて繰り返し知識及び技能の定着を図ることができるよう工夫されている。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、学習のまとまりごとの「まとめよう」や、各編末の「学習のまとめ」に「生活に生かそう」を設け、生徒が学習したことを自分自身の生活に生かせるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「プロに聞く」や、巻末に「学んだことを社会に生かす」で、将来を見据えた職業観、勤労観を育成する工夫が見られる。</p>

4 教 図

- (1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、「話し合ってみよう」「調べてみよう」など身近な話題をもとに、多数掲載されたワークを活用し実践的・体験的な活動を通して主体的に学ぶ工夫が見られる。また、すべての内容を問題解決的な学習の流れで進めることができるので、課題の解決から新たな課題の発見につなぐ繰り返しの学びによって、生活を工夫し創造する力が身に付く深い学びになるよう工夫されている。
- (2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、重要語句の強調表記や編ごとのキーワードを提示するとともに、コンテンツを活用しながら実感を伴って学ぶことができる。また、実習題材では「私のアレンジ」を紹介し、自分なりの家庭実践につなぐ意欲をもたせることで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るよう工夫されている。
- (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各編末に「学びを生かそう」を設定し、学びの中から問題を発見し、課題を設定して解決できるように学習の例を複数示し、記録レポートを活用しながら、思考し表現できるように工夫されている。
- (4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「センパイに聞こう」で、家庭分野の学びの先にある自分の未来を描き、実現のために生活をよりよくしようとする態度を育成する工夫が見られる。

- (1) 主体的・対話的で深い学びを展開するために、学習のまとまりごとに見通しがもてる目標を設定し、生活の中から課題を見つけて「何を学ぶか」を明確にして主体的に取り組める工夫が見られる。また、生徒同士で対話や意見を交換しやすいような身近な話題を学習活動に多く取り入れ、対話的な学習を進めながら自らの考えを広げ、「発展」のページも活用して学習を深められるような工夫が見られる。
- (2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、内容を厳選して的確に記述し、また、調理実習では「調理方法Q&A」を取り上げ、科学的根拠に基づいた理解を深めることができるように工夫されている。さらに、「生活の課題と実践」を巻末に項目を立て、学習で習得した知識及び技能を実生活で活用しながら定着を図ることができるよう工夫されている。
- (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、自分事として捉えた課題をもとに学習を進め、編末の「学習のまとめ」では、記述を含む振り返りの問題を設定し、自らの考えをまとめ、表現する力をつけることができるような工夫が見られる。
- (4) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「先輩からのエール」で、生活が様々な職業・人によって成り立っていることを理解し、将来の進路選択に生かす態度を育成する工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、編の初めのダイナミックな写真や折り込みページを用いて視覚的な効果で学習を進めることができるように工夫されている。また、動画やシミュレーション、ワークシートなど教科書と連動して利用できる多種多様なQRコンテンツはWebページから無料配信され、授業だけでなく家庭でも活用できるようになっており、学習を主体的に進められるよう工夫されている。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、学習案内のキャラクターや中学生の意見に共感するキャラクター、見方・考え方のヒントを出すキャラクターによって、生徒が学習を身近に感じながら意欲的に取り組むように工夫されている。</p>
4 教 図	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、文字と資料のバランスを考え、本文に沿って必要な図表や写真が適切に配置され、学びを助ける効果的なイラストも多く示され理解しやすい工夫がされている。また、予習や復習に活用したり体験的な学びをサポートしたりする二次元コードのコンテンツには全てタイトルが付いているので活用しやすく、学習を主体的に進められるよう工夫されている。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、各学習の「見つめる」段階で、登場人物が日常生活の会話のようなせりふを言う一コマ漫画を配置して問題提起をすることで、生徒一人一人が学習に関心をもてるよう工夫されている。</p>
9 開隆堂	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、技能面の写真が詳細で分かりやすく表現され、細部については拡大写真やイラストを添えたり、目には見えない栄養素なども科学的に可視化したりすることによって、見方・考え方を広げながら理解が深まるような工夫がみられる。また、学習内容にQRマークを付けることで豊富なコンテンツから、取捨選択して主体的に活用できるよう工夫されている。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、学習者である中学生の等身大のキャラクターに本音を言わせることで、疑問やヒントを投げかけ、生徒が共感したり自分自身を再度見つめたりして学習に取り組みやすいよう工夫されている。</p>